

商学専攻 TOPICS

商学専攻の教員が各自の研究の魅力・面白さなどを紹介しています。大学院のカリキュラム紹介のページなどと併せて参考にして下さい。

池野 秀弘（いけの・ひでひろ）教授

担当科目名： ミクロ経済学特殊講義A・B

研究の紹介・アピールポイントなど：

私は、これまで経済学のさまざまな分野を研究してきましたが、近年は日本国内の物価の地域格差を研究しています。日本は流通システムが発達し、そして、比較的均一な社会といわれています。そうならば、地域間で物価の格差は生じないはずですが、それにもかかわらず、なぜ実際には物価の地域格差が生じるのでしょうか。その問題を統計データを使って解析しています。研究の動機は、日本経済とよくいうがそれはどのようなものなのか、日本経済は統合されているのか、あるいは、実際には地域によってバラバラな地域経済の寄せ集めなのか、そのような問題を探求したいという関心です。

リサーチマップ： <https://researchmap.jp/7000015782>

岩田貴子（いわた・たかこ）教授

担当科目名： エリア・マーケティング特殊講義A・B

研究の紹介・アピールポイントなど：

研究分野は地域概念を基にしたマーケティング理論です。エリア・マーケティングは我が国で1970年代後半に誕生したマーケティング理論です。それが現在に至るまでどのような変遷を辿り、今後はいかに展開するのかを思考して、理論と実践の両面から探求しています。最近では日本各地の産物・サービス（特産品、農産物）とマーケティングの関係に焦点を当て研究しています。

授業では、マーケティングの哲学や倫理を基盤とするため、まずフェルナン・ブローデルの『地中海』を読みます。その後、『エリア・マーケティング デベロップメント』などを輪読する予定です。

リサーチマップ： <https://researchmap.jp/read0192271>

大島考介（おおしま・こうすけ）教授

担当科目名： 財政学特殊講義A・B、商学演習

研究の紹介・アピールポイントなど：

公共経済学、財政学を専門にしています。以前は租税競争等、近年は混合寡占の分野で研究を行っています。租税競争とは国同士などで資本などの誘致を巡って税を道具にして競争することをいいます。混合寡占とは公企業と私企業が寡占市場で競争する状態のことで、民営化などがテーマになります。

経済学の理論モデルを使った分析では意外な結論が得られることもしばしばあり、そのようなところに研究の面白さを感じています。

リサーチマップ： <https://researchmap.jp/read0212623>

岸本徹也（きしもと・てつや）教授

担当科目名： 商学（総論）特殊講義A・B、商学演習

研究の紹介・アピールポイントなど：

研究分野は小売業のマネジメントです。チェーンストア組織を展開する小売企業の本部や店舗組織の仕組み、店舗運営方法についてフィールドワークによる事例研究に取り組んでいます。

小売業のマネジメントを学ぶためには、商学や経営学の知識が必要になります。前期の特殊講義Aでは、小売マネジメントに必要な流通論、マーケティング論および組織論、戦略論の基礎を学びます。後期の特殊講義Bでは、小売マネジメントに関するテキスト『体系 小売マネジメント論（仮名）』（2024年9月出版予定）の各章を担当者に発表してもらい、その発表内容から議論を展開していきます。日本のサービス、小売企業の仕組みに関心のある大学院生の参加をお待ちしています。

リサーチマップ： <https://researchmap.jp/tetsuya-kishimoto>

金 雲鎬（きむ・うんほ）教授

担当科目： マーケティング特殊講義A・B、理論構築特殊研究B、商学演習

研究の紹介・アピールポイントなど：

研究分野は「B to B マーケティング」と「デジタルマーケティング」です。企業間の関係性や相互作用、組織内部問題をマーケティング観点で捉えようとしています。どちらかというとな見えないところで起こるビジネス現象に関心があります。そのためにデジタルマーケティングといっても SNS 活用やオンライン購買のような消費者行動論をベースとする研究ではなく、IT 技術の活用が企業間関係や組織内部に与える影響に焦点をあてて研究しています。演習では、「良質の論文を執筆すること」を目標としています。企業のバックヤードで起こるマーケティング現象に関心がある大学院生と二人三脚で良質の論文を執筆することがとても楽しみです。

リサーチマップ： <https://researchmap.jp/read0128624>

木村雄一（きむら・ゆういち）教授

担当科目名： マクロ経済学特殊講義A・B、商学演習

研究の紹介・アピールポイントなど：

研究分野は、ミクロ・マクロ経済学の理論史・思想史をベースとした現代経済学の全般的な研究です。経済学はアダム・スミスに始まり、ジョン・メイナード・ケインズによってマクロ経済学が誕生しましたが、アーヴィング・フィッシャーやミルトン・フリードマン、ヨゼフ・アロイス・シュンペーターなど数多くの経済学者たちの叡智によって、現代経済学が形成されてきたことは言うまでもありません。経済学が現在に至るまでどのような変遷を辿り、今後はどのように展開するのだろうか。本授業では、マクロ経済学の体系的な理論がどのような問題意識で形成されてきたのかという理論史・思想史に依拠しつつ、マクロ経済学全般を学ぶことを目的とします。

リサーチマップ： <https://researchmap.jp/7000011522>

竹内 真人（たけうち・まひと）教授

担当科目： 商業史特殊講義（I）A・B、商学演習

研究の紹介・アピールポイントなど：

私の研究分野は、イギリス帝国史で、19世紀のイギリス宣教師の活動とイギリス商業・イギリス帝国拡張との関係を分析してきました。近年では、ブレッグジット後のアングロ圏（イギリス、カナダ、オーストラリア、ニュージーランド、アメリカ合衆国）の紐帯強化に注目しながら、イギリスの勢力圏としてのブリティッシュ・ワールドの歴史の変遷を分析しています。

商業史特殊講義（I）A・Bと商学演習では、イギリスを中心に形成された資本主義的世界システムの歴史の変遷を感情的紐帯（血縁、宗教、言語）・経済的紐帯（産業、商業、金融）・軍事的紐帯（武器移転、軍事援助）の諸相に注目しながら考察しています。現代のグローバルな近代資本主義的世界経済がどのように誕生したのか、その歴史に興味のある大学院学生の参加を期待しています。

リサーチマップ：<https://researchmap.jp/read0151595>

張 喬森（ちょう・きょうしん）教授

担当科目： 貿易論特殊講義A・B、商学演習

研究の紹介・アピールポイントなど：

専門は国際経済学です。グローバル経済の仕組みを解き明かす研究に取り組んでいます。特に、海外直接投資（FDI）を軸に、国際経済の深い理解を目指します。理論モデルと統計分析を用いて、FDI決定のメカニズムを考察します。

なぜ企業は海外に進出し、どのような要因がFDIに影響を与えるのか？政府はFDIをどのように促進・規制すべきなのか？これらの問いに対する答えを探求することで、FDIがもたらす多角的な影響を明らかにします。さらに、分野横断的な視点を用いて、FDIの波及効果と政策的含意を考察します。

国際経済、特に企業の海外展開に関心を持つ学生を歓迎します。一緒に研究を通して、海外直接投資の深い理解を深めていきましょう。

リサーチマップ：<https://researchmap.jp/JosephChang>

堀田 治（ほった・おさむ）准教授

担当科目： 消費者行動論特殊講義A・B、商学演習

研究の紹介・アピールポイントなど：

私は舞台芸術のマーケティング研究を起点として、鑑賞者やパフォーマーの認知および非鑑賞層の行動阻害要因の研究を消費者行動論の理論に基づいて行っています。また、この領域で培った知見をもとに、アウトドアやライブ、旅行など体験的な消費と、その経験価値についても研究しています。研究成果は劇場経営への示唆はもとより、店舗における顧客体験デザインや近年注目されているコト消費の構築にも活かせる内容になっています。研究対象は柔らかめですが、研究は消費者行動研究の知見と方法論に則って行っており、これまであまり研究対象とされてこなかった分野のための発見も多く、新たな概念や知見が得られたときは研究の醍醐味を感じます。

リサーチマップ：<https://researchmap.jp/hotta.osamu>

松原 聖（まつばら・きよし） 教授

担当科目： 貿易論特殊講義A・B、商学演習

研究の紹介・アピールポイントなど：

今年度の貿易論特殊講義Aでは、伊藤萬里・田中鮎夢『現実から学ぶ国際経済学』有斐閣、2023 年を履修者と輪読しています。教科書の内容を原データまでさかのぼるなどして、世界経済・日本経済の諸問題を幅広く議論することを目指しています。

専攻は国際経済学で、日本企業の海外進出やサービス貿易としての観光を主に研究しています。大学院生の論文指導はテーマを国際経済に限定せず、日本の産業・企業の事例研究など、大学院生の興味に応じて行っています。ぜひ商学研究科に興味を持って、オープンキャンパスなどに足を運んでもらえればと思います。

リサーチマップ： <https://researchmap.jp/read0077789>

水野 学（みずの・まなぶ） 教授

担当科目： 商学（総論）特殊講義A・B、商学演習

研究の紹介・アピールポイントなど：

私の専攻はユーザー・イノベーションです。技術や製品の開発は、メーカーの役割だと考えるのが一般的ですが、実際に調べてみるとその製品の使い手、つまりユーザーもイノベーションを行っていることがわかってきました。ユーザーがなぜ、どのようにイノベーションを行うのか、これが私の研究関心です。商学（総論）特殊講義A・Bではこのユーザー・イノベーションの入口部分の知識修得を、演習ではそれをさらに発展させるための研究指導をそれぞれ行っています。他の大学院や研究機関ではあまり学ぶことができないこの先端的な研究に触れてみませんか？

リサーチマップ： <https://researchmap.jp/read0209174>

山倉 和紀（やまくら・かずのり） 教授

担当科目名： 国際金融論特殊講義A・B、外国文献研究（英）、商学演習

研究の紹介・アピールポイントなど：

私の専門分野・担当科目は国際金融論ですが、特に関心があるのは、変動為替レートに関する学説と政策思想です。具体的には、最初期の変動為替レートともいえる 18 世紀末から 19 世紀初頭にかけての英愛為替関係と 1804 年のアイルランド為替論争が研究対象です。当時の論争参加者たちの為替学説・政策思想を検討しながら、為替論争の再評価を行っています。そこでは現代にも通じる多くの課題が議論されており、中央銀行による為替介入論まで登場しています。私にとっては宝箱のような時代です。

リサーチマップ： <https://researchmap.jp/read0044645>
